



リンゴの木を食べるハタネズミ
（ムラノ研究員提供）

リンゴ樹皮食べる害獣

リンゴの樹皮を食べるなど
被害を与える害獣・ハタネズ
ミが他のネズミに遅れ、積雪
期にも繁殖し数を増やしてい
る事が弘前大学学生会館科学
部研究機関のムラノ千恵研究
員らの調査で分かった。冬に
繁殖するハタネズミは北海道のレ
ンジクの仲間以外ほぼ報告が
ない。一方、ハタネズミは春
先、フクロウなどの天敵を逃
とれない春先以降は大きく個体
数を減らす。食物連鎖の観点
から同研究員は「適正なハラ
ンスでの共存が必要」と話す。
6日までに国際誌「ポピュレ
ーションエコロジー」が同研
究を掲載した。（珍田秀樹）



リンゴ園のハタネズミが約1層の雪の下で繁殖していることが分かった（ムラノ研究員提供）

希少な生態 弘大が確認

調査はムラノ研究員と東
信行教授（森林総合研究所
（茨城県つくば市）野生動
物研究領域の飯島勇人主任
研究員の研究グループが、
弘前市の農業者団体「下湯
口ふれあひの会」の協力を得て実施。2017年から
19年にかけて同市郊外の複
数のリンゴ園でハタネズミの
月別生息密度や生存率を
調査した。

通常のハタネズミは冬に最も
個体数を減らし、夏から秋
に繁殖するが、ハタネズミ
は雪のない時期は地中に
潜りこむが、冬でも雪のない
地域では通常、新鮮な状態で
保たれている下草などを餌
にしており、時にリンゴの
樹皮を食べたり、被害を与
えられることがある。

研究グループは個体数の
変化などを調べ、同ネズミ
は冬期間も、雪と地面の間
の温度変動が少なく、天敵
がほぼいない環境で繁殖す
ることを確認した。ムラノ
研究員は、津軽以外の積雪
地帯のハタネズミでも同様
の傾向があると推測。雪の
下では通常、新鮮な状態で
保たれている下草などを餌
としているが、時にリンゴ
の樹皮を食べたり、被害を与
えられることがある。

ムラノ研究員によると、
この生態は「珍しい」とい
うべきものだ。下草を残
さずかがりリンゴ樹皮を食
べる上位重要な役割を果たす
ハタネズミが、冬でも雪のない
地域で繁殖する事例は、これまで
見つかっていない。

ムラノ千恵
研究員